

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率100%
保護者様: 29名回答、回答率96.7%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・スケジュールを分かりやすいイラストで掲示したり、運動スペースと机上課題スペースを分けたりして、環境を構造化している。児童も流れを理解し、スムーズに取り組むことができている。
- ・個室はパーテーションで区切り、視覚的な刺激を減らしている。

○業務改善

- ・社内の階層別研修を受講、定期的な業務の振り返りと上長面談などを通して、職員一人ひとりのスキル向上に努めている。
- ・児童対応などについて心理士や作業療法士から助言を求めたりして、支援の質の向上に繋げている。
- ・年一回のアンケートで内部・外部からの評価を確認し、次年度の目標設定に反映している。

○適切な支援の提供

- ・業務前ミーティングで児童一人ひとりの課題や目的を明確にし、全職員が共通認識をもって支援を行っている。
- ・年長児を対象に小集団の就学準備プログラムを実施し、集団活動の中で見えた課題を分析して個別の課題と組み合わせながら支援を行っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・幼稚園や保育園と連携をとり、支援に繋げている。
- ・地域の自立支援協議会に積極的に参加している。
- ・支援後に保護者へフィードバックを行い、課題の目的、内容、達成度などについて共通認識をもつことができている。

○保護者への説明責任等

- ・契約時は重要事項を説明し、個人情報の使用同意を頂いた上で契約している。
- ・ブログにて教室での取り組みを定期的に発信している。

○非常時等の対応

- ・月一回の避難訓練では、地震・火災・水害・不審者等様々なケースを想定して実施している。
- ・定期的に虐待防止研修を実施している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・「子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか」「職員の配置数や専門性は適切であるか」「生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか」については90%以上の方から「はい」と回答をいただき、「絵カードやスケジュールを書いた紙などを提示して、視覚優位にも伝わりやすくしてくれています」などのご意見をいただきました。

○適切な支援の提供

・「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか」「活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか」については90%以上の方から「はい」と回答をいただき、「いろいろな経験をさせていただき、楽しみながら取り組んでいます」とのご意見をいただきました。

・「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか」については「幼稚園に通っているためこちらでの交流は希望していません」とのご意見をいただきました。

○保護者への説明等

・「支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか」については100%の方から「はい」と回答をいただきました。

・「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解できているか」については90%以上の方から「はい」と回答をいただき、「フィードバックの時間に娘の様子をお伝えすると、すぐに支援に反映してくださるのでとても助かっています」とのご意見をいただきました。

・「保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか」については「わからない」との回答もあったため、家族支援プログラムの実施や事業所内相談支援の周知方法を検討していく必要がある。

○非常時等の対応

・「各種マニュアルの策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した避難訓練が実施されているか」については「わからない」との回答を多くいただいたため、周知方法を検討していく必要がある。

○ 満 足 度

「支援に満足しているか」については100%の方から「はい」と回答をいただき、「今まで一度も嫌がらず楽しく通所しています」「通所したあとはいつも機嫌が良く、たくさん褒めてもらえることで家でもやってみようという気持ち生まれています」などのご意見をいただきました。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・ペアレント・トレーニングの実施についての検討。
- ・多くの利用者への避難訓練の実施と保護者への周知。

○改善できた点・まだ残る課題

・事業所内相談支援として定期的な面談以外にもお困りごとの解決に向けて話を聞いたり助言をする機会を設け、保護者支援を行うことができた。しかし事業所内相談支援の周知は十分ではないため、全ての保護者へお伝えする必要がある。

・多くの利用者へ様々な災害を想定して避難訓練を実施することができた。しかし保護者への周知は十分ではないため、各種マニュアルの内容も含めてお伝えする必要がある。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童にわかりやすい構造化された環境を作ることができている。
- ・社内の階層別研修を受講するなど、職員一人ひとりが自己研鑽を積むことができている。
- ・業務前ミーティングにて児童の様子を細かく共有し、チームワーク良く支援を行うことができている。
- ・保護者や幼稚園、保育園、他事業所などと連携を図り、支援を充実させることができている。

○改善点

- ・ペアレント・トレーニング等の保護者支援プログラムの実施を検討する必要がある。
- ・事業所内相談支援として定期的な面談以外にも話を聞く機会を設けることができる旨を保護者へ周知する必要がある。
- ・非常時等の対応について、各種マニュアルの内容や月1回の避難訓練の実施も含めて保護者へ周知する必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・ご家庭や各関係機関との連携を強化し、包括的支援の実現を目指す。
- ・利用者に対して、法人や事業所としての各種取り組みについての積極的な情報共有を図り、透明性の高い安心できる事業所運営を行っていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者への支援後のフィードバックの内容を見直し、ペアレント・トレーニングの視点も取り入れていく。また、事業所内相談支援についての周知を行い、保護者にとって相談しやすい環境作りに努めていく。
- ・保護者へ支援後のフィードバックをする際に、過去の避難訓練実施報告書や各種マニュアルを用いながら、災害時等の対応について説明する。

スマートキッズ